

事例

～小さな島でもでっかいスポーツ環境～

(特定非営利活動法人 沖永良部スポーツクラブ ELOVE)

活動類型① スポーツ関連団体・クラブにおけるスポーツ実施者獲得



取組概要

- ・ 約12,000人の島内で、スポーツの楽しみを味わえる活動推進と、島民の運動習慣の定着を図っている。
- ・ 具体的には、廃園となった保育園をリノベーションした運動拠点施設でのフィットネスジム運営・未就学児運動教室・高齢者介護予防教室の運営を実施している。

実施体制、運営状況等

- ・ 当法人は、H28年1月発足し、R2年度3月までの3年間は行政からの補助金（奄美群島成長戦略推進交付金事業）で運営、R3年4月からは自主運営を予定している。
- ・ 当法人は、約10年前から行政で検討していたスポーツ団体設立の構想を引き継ぎ、事業をスタートさせた。（全島民（未就学児から高齢者まで）を対象に運動機会の増加や運動習慣化にむけての事業をスタート）

運営費用：年間2,000,000円（自主財源）※フィットネス会員費、未就学児運動教室会費で調達
運営資源：運営スタッフ3人
施設整備費：廃園となった保育園のリノベーション費用が13,000,000円（補助金で調達）
実施期間：H28年～R2年継続中

取組の狙いとポイント

沖永良部島民のスポーツ実施の現状

- ・ 運動環境が乏しく、集団の運動に適した体育館・球技場があるが、個人が自由に時間を選んで運動を実施する環境がない。
- ・ 知名町の合計特殊出生率は、2.02と鹿児島県の1.62と比較しても高く、特に子ども（未就学児）の運動拠点施設へのニーズも高い。
- ・ 65歳以上の高齢者人口は2,091名、高齢化率は34.2%、特に後期高齢者1,151名であり、65歳以上の高齢者への運動習慣化が課題である。

幅広い年齢層への運動機会増加や運動習慣化に向けたプログラムを提供。

- ・ 島のスポーツ指導者が集まり、島民が幅広く活動できるようにと思いから団体を設立し、廃園となった保育園をリノベーションし、運動拠点施設を整備、下記のプログラムを提供した。小さい島だからできる取組としては、生徒数が少ないため、小～高校までの生徒が同じグラウンドで練習することができる。
 - 未就学児－毎月1回(町が運営)認定こども園への運動教室巡回を実施、週1回の未就学児運動教室を開催。（未就学児運動教室を展開することで、若い母親の（子供たちのスポーツ実施への）要望を満たすことに繋がっている）
 - 小学生－島内でサッカーをしている女子を集めて、女子サッカー教室の開催。
 - 中学生－部活を引退した3年生を対象に、高校入学までの期間練習会を開催(サッカー・野球)。
 - 高齢者－月3回 高齢者介護施設にて、運動教室を開催。
 - 島民－フィットネスジム運営・ヨガ教室等を開催し、個人が自由に時間を選んで運動できる環境を整え、運動を習慣化・定着させたい。

幅広い年齢層の島民が自身の判断で自由に運動できる環境を作る取組

取組効果

- ・ こども園巡回教室開催から未就学児運動教室への参加者が増加（会員数20名）。
- ・ フィットネスジム会員が約120名在籍(内65歳以上が1/4)し、30歳～50歳代・65歳以上への運動習慣化定着へ繋がりがつつある。

今後の展開、取組方針

- ・ 子育て世代間のママさんたちへのプログラム提供(世代を超えて集まれる運動拠点の構築)、幅広い年齢層への運動指導者の育成。
- ・ 次年度からは、行政とタイアップして、実施率調査を行い、実施率向上にむけたプログラム構築に取り組む予定である。
- ・ また、要介護認定率の減少の為に、運動教室を開催予定である。